

■ 校内研修支援プログラム「IPPPO (いっぽ)」とは

全国学力・学習状況調査をはじめとした各種調査の目的の一つは、各学校が、自校の調査結果を活用し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。また、各学校においては、カリキュラム・マネジメントの充実に向け、各種調査結果やデータ等に基づき、児童の姿や学校及び地域の現状を的確に把握した上で、取組を進めることが必要です。

「IPPPO (いっぽ)」は、学力調査等の結果を活用して指導改善に取り組む学校の校内研修を支援するために、広島県教育委員会が作成したプログラムです。「IPPPO (いっぽ)」は、全国学力・学習状況調査の調査結果CD-ROMを読み込むことにより、議論のテーマごとに関連する自校のデータが表示された校内研修用のシートを作成します。

ちなみに、「IPPPO」という名称の表記は、下に示すように、四つの願いを想起させる四つの英単語の頭文字に由来しています。また、「いっぽ」という読み方は「一歩」をイメージしたものであり、学校全体で踏み出す指導改善の「第一歩」に役立ててほしいという思いからです。

各学校において、たとえば、この「IPPPO (いっぽ)」等を活用し、自校の児童生徒の実態や指導の状況を踏まえ、活発な議論を行い、組織的・計画的な指導改善を進めていただきたいと考えております。

校内研修支援プログラム「IPPPO (いっぽ)」に込めた願い

- I**ndividual 児童生徒一人一人の顔を思い浮かべ、個別の状況を把握し、丁寧な分析を！
- P**urposeful 「主体的な学び」の実現に向けた授業改善の手立てを明確にするために！
- P**ositive 児童生徒の「分かった！」「できた！」という笑顔の実現に向けて前向きに！
- O**rganized 調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で組織的・計画的な取組を！

文部科学省 平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

文部科学省 小学校(中学校)学習指導要領(平成29年3月告示)

第1章 総則 第1 小学校(中学校)教育の基本と教育課程の役割

4 各学校においては、児童(生徒)や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

文部科学省 小学校(中学校)学習指導要領解説 総則編

第3章 第1節 4 カリキュラム・マネジメントの充実

ア 児童や学校、地域の実態を適切に把握すること

教育課程は、第1章総則第1の1が示すとおり「児童(生徒)の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して」編成されることが必要である。各学校においては、各種調査結果やデータ等に基づき、児童の姿や学校及び地域の現状を定期的に把握したり、保護者や地域住民の意向等を的確に把握した上で、学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定めていくことが求められる。